

## ■今月の特選句

2013年1月号

## 彼の世へと顔見世デビュー中村屋

百千草

勘三郎は、彼の世の顔見世にデビューしたのだ。如何にも勘三郎らしい鮮やかな転身である。「顔見世の幟彼の世に中村座」ということなのだ。

## セーターに征服したき峰ふたつ

小林英昭

征服したきは正直な男心。女心だと、「セーターに征服させる峰ふたつ」。ペチャパイならば、「セーターに此処が峰だと書き添える」。

## 闘牛の頭突きのごとし歌留多とり

柳 紅生

「礼節を欠く伝統の歌留多とり」と思っていました。あれは闘牛だったのですね。「つ」を装着して勢子に尻を叩かせて突進。楽しいね。

## 一軒が干せばつぎつぎ布団出る

有富洋二

「継ぎはぎの布団も干され堂々と」ということになりますか。「寝小便で描かれた地図や布団干」なども、庶民の暮しが描かれてこそ。

## 腰紐を投げしごとくに冬の川

笠 政人

冬の川は腰紐で夏の川は帯。見立ての句ですね。「風にそよぐやブローチの赤い羽根」「蛇皮のベルトを這わせ太つ腹」「腰縄を外して括り冬の牢」。

## 冬の富士半身浴を楽しめり

久我正明

雲海に浮かぶ富士ですね。雲に覆われて、頂上だけが見えたら、「冬の富士全身浴を楽しめる」。雲に隠れたら、「潜水が得意で隠れ夏の富士」。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 手袋の大きさ違ふ出来上り  
・・・姉と妹で右と左を  
田中章子
- 何でこう小春日和を好きなのか  
・・・日向ぼこりは埃っぽい  
田中 勇
- すつぽん鍋食べても何の変化なし  
・・・財布が軽くなっただけとは  
壽命秀次
- トナカイがサンタにからむクリスマス  
・・・トナカイさんは酒癖悪く  
松尾軍治
- はじめからしなければよし落葉搔  
・・・三日坊主の日記も同じ  
高橋きのこ
- 我が影の脚長くなり日の短  
・・・短足の短日短の短  
麻生やよひ
- 小銭のみたまるポケット年の市  
・・・億枚ためていつか富豪に  
有吉堅二
- たすき掛け大樹にからむ蔦紅葉  
・・・酒を飲んだか蔦の紅葉は  
秋月裕子
- 亀どちのギャラリーとなり鴨迎ふ  
・・・餌じやないから亀は舌打ち  
青山桂一
- 耳垢も鼻くそも不作年暮るる  
・・・目やにと痰は大豊作か  
安藤淑子

**ソラマチも旧き路地にも聖夜かな**

・・・月は貧富の分け隔てせず

大関のどか

**長き夜の読書やめて肩を揉む**

・・・そのうち肩を揉む手の疲れ

門屋 定

**此処だけの話に弾む神の留守**

・・・神も出雲で秘密会談

菅野あたる

## ■今月の滑稽句

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 身の丈を忘れて買いし熊手市<br>老懶のほとんど余白日記果つ<br>そぞろ寒む病める地球に住みつづけ     | 青木輝子<br>青木輝子<br>青木輝子    |
| 【佳作】 | 絮屑を吐きて果てなむ藤袴<br>休み田もゆるりゆるりと冬耕へ                         | 青山桂一<br>青山桂一            |
| 【佳作】 | はなひりて美髯ととのへみたりけり<br>大工の親分「第九」を唄ふ師走かな                   | 秋月裕子<br>秋月裕子            |
| 【佳作】 | 身酒酌む知つたかぶりをひけらかし<br>一の酉照れくささうな手締め <small>の</small> 輪   | 麻生やよひ<br>麻生やよひ          |
| 【佳作】 | 守備範囲少し狭めて去年今年<br>松の内どうにもならぬ事のあり<br>初句会秘守することの一つだけ      | 足立淑子<br>足立淑子<br>足立淑子    |
| 【佳作】 | 上司への添え書き長し年賀状<br>何ぞのと聞かぬが花よお家鍋                         | 有富洋二<br>有富洋二            |
| 【佳作】 | 年忘れ忘れてならぬこと忘れ<br>ふぐ鍋の誘ひに乗つてしまひけり                       | 有吉堅二<br>有吉堅二            |
| 【佳作】 | 木枯らしや箒に逆らう葉もありて<br>コンビニのそれより小さき我がおでん<br>牡蠣食えば金が気になる月半ば | 栗倉健二<br>栗倉健二<br>栗倉健二    |
| 【佳作】 | 年の瀬のふところ具合皆黙視<br>逸材の無き選挙戦かえり咲き                         | 安藤淑子<br>安藤淑子            |
| 【佳作】 | 死亡欄いよいよ混みて年詰る<br>ねんねこの中へ吹き込む艶歌かな<br>飽食を主よ許されよクリスマス     | 飯塚ひろし<br>飯塚ひろし<br>飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 葉脈の道も絶たれし骨落葉<br>風は敵頑固動かぬ濡れ落葉<br>寒そうなおばさん今朝も缶コーヒ        | 井口夏子<br>井口夏子<br>井口夏子    |
| 【佳作】 | 瓜なすび不美人じやとて味よろし  | 池田亮二                    |

	待宵や振られた女の数かぞえ	池田亮二
	忘れられひとり鮮やか紅ちよろぎ 寝積や予想どおりの朝帰り	石川節子 石川節子
【佳作】	飛石は僧の歩巾か朴落葉 軒下の日に日に重く吊し柿 廃校を知らずに柿のうれにけり	板倉肱泉 板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】	わが庭に万有引力熟柿落つ 国籍は G8 なみ節料理 のど飴の配られてゐる初句会	伊地知寛 伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	葱値切る根岸の禰宜を労いて 南から吹く北風に狂ひ咲き 偽物は犬観なりし文化の日	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	玉子酒下戸とも知らず飲み干して 玄関にでんと冬至南瓜かな 目立たない所に目立ち冬桜	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	特急の紅葉景色早送り 十二月重しの取れたカレンダー 年忘れ主婦を忘れてカンパニー	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	芙蓉剪る君必要と言いながら 吾亦紅地味に生きたり吾もこう ハロウィンや笑うざくろの魔女もいて	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	放浪忌花のいのちは永らへて 初夢は枕の中へ貯めておく 宝船並航するや護衛艦	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	神の留守みくじ引く手の迷ひをり 難聴のはじまつてゐる濁酒 仏にも神にもすがる秋競馬	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	近頃は竈探せず土鍋猫 無口なる夫との余白雪ばんば	大関のどか 大関のどか
【佳作】	拡声器空切り走る師走かな かさこそと片言語る枯蓮	奥脇弘久 奥脇弘久

	極月の雑踏に居てひとりぼち	奥脇弘久
【佳作】	絹ぶとん掛けし寝釈迦の生めかし 思惟仏のあだな流し目小六月	笠 政人 笠 政人
【佳作】	師走に逝けりシベリアの生き残りと言ひし人 勘三郎テレビに見栄切る十二月 掃き惜しむなりベランダの散紅葉	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	着膨れてバンドの穴をずらしたり せり上る畑の大根盗み見る ひと気なき管理事務所の柿の色	加藤 賢 加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	多彩なる庭一面の落ち葉かな 柿届く大中小の味同じ	門屋 定 門屋 定
【佳作】	書に疲れ熟眠したり文化の日 すき焼の味のいさかひ後を引く 寒鰯や出世の上がりて捕はるる	金澤 健 金澤 健 金澤 健
【佳作】	小春日や浄土の夫に愚痴こぼす 枯蓮のカラカラカラと空の音 纏ひつき嫌はれてゐる牛膝	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	しぐるるやバネの緩びし膝頭 早足の妻のあと追ふ片時雨	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	金木犀主は誰か尋ねけり 何人も党首が揃ふ冬銀河	久我正明 久我正明
【佳作】	大根足据ゑて大根抜きたまふ 体操は指より始め花八手 表裏忘れひらひら紅葉散る	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	五六本ネズミに残し大根引く 年迫る神に仏に鬼にもか	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	煤逃げの今日はどこまで行ったやら 蚯蚓君大志を抱け絵馬の蛇 注連縄の小さき橙悔やまれる	小泉花子 小泉花子 小泉花子
	姑が十年連用日記買ふ	小林英昭

- |      |   |                         |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 床の間の布袋食うたか鏡餅  | 小林英昭                    |
|      | 校門に日の丸が立っていた昭和<br>正月に飾る花々花と華                            | 齋藤八兵衛<br>齋藤八兵衛          |
| 【佳作】 | 節電とエコで吾が家は寝正月   | 齋藤八兵衛                   |
|      | 悪餓鬼も紳士となりて成人日<br>おそろいの大和撫子成人日                           | 酒井鹿洋<br>酒井鹿洋            |
| 【佳作】 | 合コンの成人の日となりけり   | 酒井鹿洋                    |
|      | 紅葉寺名木楓枯れてゐる<br>野良猫に先取されて日向ぼこ                            | 佐野萬里子<br>佐野萬里子          |
| 【佳作】 | 師走まで掛け耐へてゐる伊勢飾  | 佐野萬里子                   |
|      | 悪気なし囃口から鳴るは尻<br>まつりごところころ変わる駒の秋                         | 柴田真一<br>柴田真一            |
| 【佳作】 | 栗集め忍者が走る冬の陣   | 柴田真一                    |
|      | 幾たびか呑みし煮え湯や葛湯吹く<br>兵たりし父の号令煤払<br>卓袱台にみかん乗せたる置手紙         | 清水吞舟<br>清水吞舟<br>清水吞舟    |
| 【佳作】 | 山眠るなかには鼯かく山も<br>あかがりのきれいに切れてしまひけり<br>煤掃を拒む身のほど知らずにも     | 下嶋四万歩<br>下嶋四万歩<br>下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 菊を着る弁慶お決まり立往生<br>木枯しに一瞬蹠踉めく不甲斐なさ                        | 壽命秀次<br>壽命秀次            |
|      | 着ぶくれて淋しがり屋の無精者<br>交番に手配写真や大マスク                          | 白井道義<br>白井道義            |
| 【佳作】 | 禁酒禁煙三日で破る玉子酒  | 白井道義                    |
|      | 腹を割ってアピールか 伊豆の鯨<br>耳もある口もある鯨のひらき店頭<br>方言巧みに鯨のひらきに呼びとめられ | 鈴木和枝<br>鈴木和枝<br>鈴木和枝    |
| 【佳作】 | 年の瀬にバスケットまとめコンビニで<br>秋風や道具なければ食べれない                     | 鈴木哲也<br>鈴木哲也            |
| 【佳作】 | 秋の暮手洗い場所に人並ぶ  | 鈴木哲也                    |
|      | 議論する不平不満や湯気立てて  | 高田敏男                    |

- |      |   |                         |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 食べ物に気遣い無用嫁が君<br>社会鍋食べて見よかと金を出し                        | 高田敏男<br>高田敏男            |
| 【佳作】 | 着ぶくれて固まっている交差点<br>コンビニの常連となりおでん食ぶ<br>生け垣にはりついている落ち葉かな | 高橋マキコ<br>高橋マキコ<br>高橋マキコ |
| 【佳作】 | 具は同じ鍋の素だけ日替わりで<br>東京の地下迷宮や土竜打                         | 高橋きのこ<br>高橋きのこ          |
| 【佳作】 | 食積や食ひたくもない年を食ひ<br>柿の木に梯子をかけて手が登る<br>生きてゐる証拠となりぬ年賀状    | 高橋素子<br>高橋素子<br>高橋素子    |
| 【佳作】 | 冬の星天使のつくる金平糖<br>裸木の後姿の兄に似て                            | 田中章子<br>田中章子            |
| 【佳作】 | 木枯やよんどころなくどや住ひ<br>木枯やひやとひが運命呪ふ                        | 田中 勇<br>田中 勇            |
| 【佳作】 | 柚子風呂や清水港は鬼より恐い<br>天の川口遊みをり佐渡をけさ<br>施設長もやきりとり親父文化祭     | 田中早苗<br>田中早苗<br>田中早苗    |
| 【佳作】 | あらぬこと考へてゐる懐手<br>ちぢむのはいややいややと干大根<br>セキュリティまかせておけと木守柿   | 田村米生<br>田村米生<br>田村米生    |
| 【佳作】 | リビングに置く場所探す鏡餅<br>小雪舞ふ温泉に入る猿の群れ<br>参道で抜きつ抜かれつ初詣        | 津田このみ<br>津田このみ<br>津田このみ |
| 【佳作】 | 老妻は七つ今年の年忘れ<br>山眠る宿の海鮮料理かな<br>売り声はなべて千円歳の市            | 飛田正勝<br>飛田正勝<br>飛田正勝    |
| 【佳作】 | 歯に衣を着せてもの言ふお元日<br>姦しく男を騙る女正月<br>留守居松悪戯者が引抜きて          | 永島董玉<br>永島董玉<br>永島董玉    |
| 【佳作】 | 日本の空の込み合う初メール<br>寝不足の顔が向こうに初鏡                         | 西をさむ<br>西をさむ            |



	書初めに1QQQ などいかが	西をさむ
	宅配ピザ隣に届くクリスマス 咳ひとつしてバリュームを一息に	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	ポケットに他人の指や悴める	
	綿虫の抜け駆け先駆け門を出づ 真っ先に信号渡る雪蛍	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	表参道罷り出でたる雪ばんば	
【佳作】	着脹れて小さな余生暖める 賀状書く同じ台詞を何十年 森光子確かに葱の香ありにけり	彦阪義久 彦阪義久 彦阪義久
	極楽とはこんなものかや日向ぼこ 失せ物は貸し忘れなり十二月	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	金輪際離さぬ構へ火鉢抱く	
	テーブルの端留守番の冬林檎 サンタさんあちらこちらに百貨店	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	ブロッコリー木を食む巨人になった気分	
	ボーナスや付けを居酒屋素寒貧 極月やスッポン出荷朝の鳴き	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	ガス風呂に死語へ追ひやる竈猫	
	色色と色色ありぬ冬紅葉 歳晩はやはり気をもむことばかり	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	災ひを転じることなき師走	
【佳作】	赤信号無視して渡る木の葉かな 小春日の背伸びしてゐる爺と婆 どれもうつ伏せ風待ちの落葉たち	藤原セツ子 藤原セツ子 藤原セツ子
	師走顔する気もなくてコップ酒 トレンドに追ひつけぬ師や年の暮	前 九疑 前 九疑 前 九疑
【佳作】	苦吟より金の工面や年つまる	
【佳作】	紅葉且つ散る溪谷の深きかな 今年も実り山宿の梅もどき 思い出のこぼれて白し柊の花	松井寿子 松井寿子 松井寿子

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | ももひきの古き物捨て年用意<br>相見での写真とちがふ寒さかな                        | 松尾軍治<br>松尾軍治            |
| 【佳作】 | 「信」の字もお役御免の師走かな<br>乱用に雨後の筍慥然とす<br>老い二人吉野家で済む聖夜かな       | 丸山紘一<br>丸山紘一<br>丸山紘一    |
| 【佳作】 | 老眼鏡かけねば簡単煤払<br>着脹れてままならぬ身の高いびき<br>娘子のように笑いて藁を梳く        | 三塚不二<br>三塚不二<br>三塚不二    |
| 【佳作】 | 小鳥満載まんざらでもなし枯木立<br>大受けす木通の種の吹き出しに<br>さるすべり茶葉つに染めて目立ってる | 三橋百笑<br>三橋百笑<br>三橋百笑    |
| 【佳作】 | 風邪に効く貰ひし酒で玉子酒<br>和服なぞなき身に困る寒波来<br>冬の風鈴思ひ出すのは夏の事        | 宮森 輝<br>宮森 輝<br>宮森 輝    |
| 【佳作】 | 底冷や温座便器のありがたし<br>空に罅入れるがごとく冬木の枝<br>薄き陽を拾いあぐねて冬の蝶       | 村上美和<br>村上美和<br>村上美和    |
| 【佳作】 | 虎の尾を踏みたるごとく年明くる<br>「生きてます」添書きひとつ年賀状                    | 百千草<br>百千草              |
| 【佳作】 | 目移りをしても許され山粧ふ<br>河豚鍋や箸小競り合ふ同窓会<br>帰花 メールに絵文字だらけなり      | 森岡香代子<br>森岡香代子<br>森岡香代子 |
| 【佳作】 | 気忙しき季が来た気配の暮れ来たる<br>秋が経ち冬も立つのに役起たず<br>滑稽句絵筆に託す念我状      | 森 要<br>森 要<br>森 要       |
| 【佳作】 | 着用の気分はかつら冬帽子<br>手袋の先端指の行きどまり<br>その縁(へり)で言ひ訳温め陶火鉢       | 八木 健<br>八木 健<br>八木 健    |
| 【佳作】 | 五感をば働きすぎて湯ざめかな<br>マスク顔夜目に遠目に笠の内<br>熱爛や猪口にこだはる下戸なりき     | 八洲忙閑<br>八洲忙閑<br>八洲忙閑    |

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | くじけても開けば直る日記買ふ<br>太陽の策を用ひて掛を乞ふ                     | 柳 紅生<br>柳 紅生            |
| 【佳作】 | 襖開け「ニヤーン」と挨拶明けの春<br>家宝人なりたし夫の節料理<br>明けの春頼む一合癌の夫    | 柳澤京子<br>柳澤京子<br>柳澤京子    |
|      | なぞかけの一石投ず寒の空<br>蒙古斑失せて蜜柑の甘くなり                      | 山下正純<br>山下正純            |
| 【佳作】 | 信号の順に色付き柿蜜柑  | 山下正純                    |
| 【佳作】 | その犬は主に似たり冬の街<br>しがみつく蒲団振り切り体操へ<br>ローマの休日終ひまで観て勤労日  | 山本けい子<br>山本けい子<br>山本けい子 |
| 【佳作】 | 歩けば健康厚着にさようなら<br>クリスマス体に故障ふたつみつ<br>ずつと早起きでずつと寒がりて父 | 山本 賜<br>山本 賜<br>山本 賜    |
| 【佳作】 | 木枯しに背中押されて医者通ひ<br>竹箒休む暇なき落葉どき<br>冬暖か惰眠むさぼる余生かな     | 渡辺さだを<br>渡辺さだを<br>渡辺さだを |